

来春から市民菜園始めませんか

利用者
募集開始!!



来年度の市民菜園の利用者を募集します。
農園は主に徳間、若槻東条などです。駐車スペースが用意されているものと、そうでないものがありますので、希望者の意向などをお聞きしながらご希望に沿った農園をご案内します。
大きさは約20~25坪、料金は年5千円~8千円です。

希望者は葉書かメールで「コミわか農園利用希望」と記入し、氏名と住所、連絡先を付して下記へお送りください。
締め切りは2月15日となりますが、1次受付として1月7日までに申込された方から逐次ご案内します。

(葉書送付先)〒381-0084 長野市若槻東条505-1 コミわかグリーン倶楽部
(メール送付先) komiwaka@bj.wakwak.com 問い合わせ先(266-0034)



介護の集いを開催しました

11月5日(土)、若槻
コミュニティセン
ター体育館におい
て「認知症の理解
と対応」と題し宅
老所「手と手」管理
者の原山直人さんよ
る講演会を開催しました。



日本の認知症高齢者の数は65歳以上の7人に1人、2025年には約5人に1人に達すると見込まれているそうです。また平均寿命も延伸しています。

認知症とはどういうものなのか基礎的な理解を深め、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けるために、認知症の理解と対応の必要性についてお話をお聞きしました。

「健常者でも往々にして最近の出来事や体験を忘れることはありますが、失われる記憶は体験の一部に過ぎず手掛かりが残されているので思い出すことが可能です。



これに対して認知症の記憶障害は体験自体を忘れる、新しい出来事を記憶することが出来ない、ヒントを与えられても思い出せない、時間や場所などの認識が困難、症状が進行する、日常生活に支障が生じる。一番大切な事は認知症高齢者であっても健常者と同様に心の動きや感情の動きが残っていることであり、この事はぜひ知っておいて頂きたい。」

今日の講演はとてもわかりやすく誰もが認知症の家族や友人隣人になる可能性があります、それを支える地域づくりの視点を持ち続けることの大切さを感じました。

(福祉部会)

長野市吉古墳群の現地研修会に26名が参加

若槻郷土史研究会では、郷土の歴史を学ぼうと11月8日(火)長野市教育委員会文化財課(埋蔵文化財センター担当)飯島哲也課長補佐を講師に会員26名が参加し、三登山東南麓の丘陵及び山麓斜面に点在する長野市吉古墳群の現地研修を行いました。



研修会では令和3年10月22日、飯島哲也講師から「長野市吉古墳群とその時代」の講演を聞き、今回の現地研修会

を行うもので、吉地区にある100近い古墳はほとんどが山林内に点在、現存数は明らかでないが大型の古墳は10に満たないとのことです。第3号古墳は横穴式石室で奥壁線刻画が描かれています。トタン屋根が被せられているが穴が開き始めています。

75号古墳は石室床面からメノウ製勾玉、ガラス小玉、水晶製切子玉、金銅製耳環など貴重なものが出土しました。今は小さな山の古墳に草が一面生えた状態のものや、古墳から木が生えているものもありました。



高校時代に吉古墳の発掘調査を経験した飯島哲也講師は「古墳の中には大室古墳を上回るほど注目される積石塚古墳などもある」との説明に参加者は「地元から保存の機運が盛り上がりければよいが」と感想を述べていました。

(若槻郷土史研究会)